

「志」と「野心」

学生時代、北海道大学を訪れたとき、  
多くの人々が知る銅像を見ました。

大学の前身、札幌農学校の創設者であり、  
マサチューセッツ農科大学の学長でもあった、  
ウィリアム・スミス・クラーク博士の銅像です。

その像の下には、  
クラーク博士の残した有名な言葉が  
英語で書かれていました。

Boys, be ambitious!

「青年よ、大志を抱け」と訳され  
人々に語り継がれてきたこの言葉を見たとき、  
その翻訳の巧みさに感心しながらも、  
この言葉の持つ「危うさ」を感じました。

なぜなら、この「ambitious」という言葉には、  
正反対の二つの意味があるからです。

「理想」や「使命感」に支えられた  
「大志」や「大望」

「功名心」や「権力欲」に支えられた  
「野心」や「野望」

不遇の晩年を送ったクラーク博士ですが、  
もとより、その本意は前者にありました。

しかし、いま、世の中を見渡すとき、  
この言葉の持つ「危うさ」が  
現実となっていることに、気がつきます。

「志」と称して、「野心」を語る。

その錯誤が、  
いま、世に溢れていることに  
気がつくのです。